

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済対策、金融政策の効果などから期待感が高まり景気は緩やかに持ち直しておりますが、所得の動向や雇用情勢には依然として不透明さが残る状況で推移しました。

医療界、介護業界におきましては、少子高齢化の進展に伴い高齢者人口が増加するなど、社会構造が変化していく中で効率経営が求められております。

このような環境の下で、当社グループは、医療・介護サービスの潜在的な需要が拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高5,606百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益339百万円(同12.7%増)、経常利益321百万円(同14.8%増)、四半期純利益176百万円(同49.1%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、前年度に3店舗が新たに加わったことと、既存店舗において処方箋の応需枚数が増加すると共に処方箋単価が上昇したことにより、売上高は5,003百万円(前年同期比8.5%増)となりました。営業利益は、薬価改定の影響で昨年4月に計上した在庫評価損が生じず407百万円(同15.2%増)となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、施設への入居者数が増加したことと、前年度に開業した介護付有料老人ホーム2施設の増加と訪問介護事業への参入により、売上高341百万円(前年同期比19.9%増)、営業利益19百万円(同53.1%減)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中で、積極的な営業活動を展開し、売上高243百万円(前年同期比29.4%増)、営業利益23百万円(同5.8%減)となりました。(内部売上を含む売上高は351百万円となり、前年同期比で25.8%増加しました。)

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、保有する不動産からの安定した賃料収入により、売上高17百万円(前年同期比5.0%減)、営業利益8百万円(同11.9%減)となりました。

また、投資事業として、株式会社ヘルスケア・キャピタルにて株式への投資を行っております。

なお、セグメント間の内部売上高として107百万円を消去するとともに、全社における共通経費として120百万円を計上しております。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は15,821百万円となり、前連結会計年度末と比較して196百万円増加いたしました。

流動資産の合計は7,119百万円となり、前連結会計年度末と比較して90百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少329百万円、売掛金の増加173百万円によるものです。

固定資産の合計は8,701百万円となり、前連結会計年度末と比較して287百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産のその他(建設仮勘定等)の増加202百万円によるものです。

負債合計は10,720百万円となり、前連結会計年度末と比較して121百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加261百万円と賞与引当金の増加111百万円、長期借入金(1年内返済予定を含む)の減少208百万円によるものです。

純資産合計は5,100百万円となり、前連結会計年度末と比較して74百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益176百万円によるものです。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の業績予想につきましては、平成25年4月5日公表の数値から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。